



PRESS RELEASE — 2025,12,24

国宝「喜左衛門井戸」× 国宝「色絵藤花文茶壺」

茶の湯のわびと雅 Ido Kizaemon × Tea leaf jar with design of wisteria:
the simple and the elegant of chanoyu

2026年3月20日|金|–5月12日|火|

茶の湯の二大国宝、同時公開！

茶の湯は12世紀に中国から請来した喫茶法をもとに、今日まで長い年月をかけて、総合芸術として、日本を象徴する文化へと昇華してきました。室町時代、中国より舶来した唐物を愛好する風潮が、足利将軍家を中心に流行し、それらを室内に飾ることで権威を示しました。15世紀末には、珠光(1423～1502)が草庵の侘び茶を唱え、その茶風は堺の豪商武野紹鷗(1502～55)により町衆らに浸透し、千利休(1522～91)によって大成されました。その後も自己の美意識にかなった新しい道具を創造する茶人たちによって、幅広い分野に影響を与えながら発展してきました。

この度の展覧会では、日本人が愛好する「わび」と「雅」の美意識を象徴する国宝「喜左衛門井戸」(孤蓬庵)と国宝「色絵藤花文茶壺」(MOA美術館)の二大国宝を36年ぶりに同時公開します。また、MOA美術館のコレクションから厳選した茶道具の数々を取り合わせて展観し、茶の湯の魅力に迫ります。

MOA美術館

広報担当: 上桢、石倉 TEL 0557-84-2567 Email: moaart-info@moaart.or.jp

EXHIBITION COMPOSITION

展示構成

会場では、作品の順番が前後する場合があります。
また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

第1章 茶の湯のわびと雅

日本人が愛好する「わび」と「雅」という対照的な美意識を示す茶道具を紹介し、象徴的な名宝として、国宝「喜左衛門井戸」(孤篷庵)と国宝「色絵藤花文茶壺」(MOA美術館)の二大国宝を36年ぶりに同時公開します。



国宝 大井戸茶碗 銘 喜左衛門
朝鮮時代 16世紀 京都・孤篷庵

豊臣秀吉や千利休によって茶の湯の文化が大きく発展した時代、朝鮮半島で作られた高麗茶碗が注目され、中でも井戸茶碗と呼ばれる茶碗は、天下一の茶碗として代表的な武将や茶人が所持しました。本展で紹介する国宝「喜左衛門井戸」は、大坂の町人竹田喜左衛門が所持していたことからそう呼ばれ、井戸茶碗の最高峰として古くから名高い茶碗です。江戸時代後期には松平不昧が愛玩し、のちに不昧の夫人・静楽院により大徳寺孤篷庵に寄進されました。



国宝 色絵藤花文茶壺 野々村仁清
江戸時代 17世紀

野々村仁清は、京都の仁和寺門前において、正保4年(1647)頃窯を開き、雅な王朝文化を基本とする金彩や色絵の陶器を製作しました。これは京極家旧蔵の茶壺で、道具帳によって、延宝元年(1673)頃と制作年代が推測できる作品群の一つです。上方の赤い蔓から放射状に藤の花が垂れ下がるため、どこから見ても構図に破綻がありません。花穂は、赤、銀、紫の3種で表現され、緑の葉には一枚一枚葉脈を施しています。仁清の色絵茶壺の中でも最高傑作とされています。

利休の美意識を具現化した究極の侘び茶碗

斬新な意匠の入れ子茶碗



黒楽茶碗 銘 あやめ 長次郎 桃山時代 16世紀



重文 色絵金銀菱文重茶碗 野々村仁清
江戸時代 17世紀

第2章 足利将軍家と茶の湯

室町時代、中国製の「唐物」を集めて室内を飾り、それらを用いて茶を喫する茶風が権力者たちの間に広まりました。特に足利将軍家には多くの「唐物」が収蔵され、同朋衆による評価・分類によって座敷飾りの法が定められました。本章では「東山御物」とよばれる足利将軍家収蔵の道具を中心に、侘び茶成立前の茶道具を紹介します。

大名物の唐物茶入



唐物羽室文琳茶入 大名物 中国 南宋時代 13世紀

6代将軍足利義教の鑑蔵印

「雑華室印」が捺される梁楷の名品



寒山拾得図 伝 梁楷筆
中国 南宋時代 13世紀

第3章 戦国武将と茶の湯

戦国時代、織田信長(1534-1582)は茶の湯が隆盛をきわめた堺を支配し、「名物狩り」と呼ばれる茶道具の強制買収を行って、政治に活用しました。信長には、堺の今井宗久(1520-1593)、津田宗及(? -1591)、千利休(1522-1591)といった茶人が仕え、「天下三宗匠」と呼ばれました。続く豊臣秀吉(1537-1598)も、彼らを茶頭とし、大徳寺や北野天満宮で大茶会を開催するなど、茶の湯の文化をより広範囲に拡大していきました。その他、徳川家康や伊達政宗といった戦国武将が所持した名品も紹介します。

伊達政宗が所持した侘びた趣を持つ天目茶碗



灰被天目茶碗 銘 秋葉
中国 南宋～元時代 13-14世紀

織田信長が所持した掛物



叭々鳥図 伝 牧谿
中国 南宋時代 13世紀

第4章 織部・遠州と茶の湯

古田織部は信長、秀吉に仕えた武将であるとともに、利休の弟子として密接な関係を持ったと伝えられ、利休没後、次第に「茶の湯の名人」として知られるようになりました。織部が取り上げた道具は、力強い造形による伊賀焼の花入や水指、「へウケモノ」と表現されるややひずみをもった茶碗など、武将好みの華やかさを特徴としています。

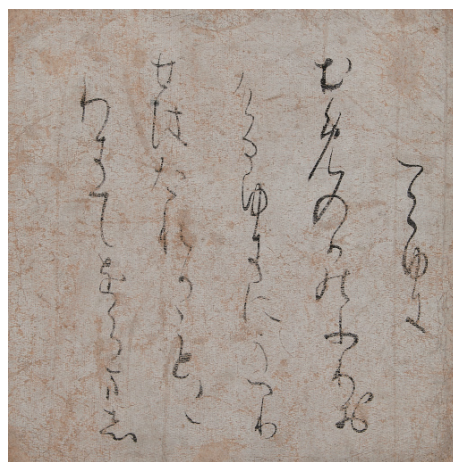
小堀遠州は、古田織部に師事したといわれ、徳川将軍家の茶道指南役として活躍した茶人です。高取など国焼の茶入に好みを反映させるとともに、中国に注文して作らせた古染付や祥瑞など華やかな器も茶席に取り入れました。また、和歌にちなんだ銘をつけるなど、平安の貴族文化を憧憬しつつ、「きれいさび」と称される格調高い新たな茶風を確立しました。

変化のある造形とビードロ釉、焦げなど、
伊賀の特徴をみせる



伊賀耳付花入 桃山時代 17世紀初期

遠州が茶席の掛物として取り入れた平安時代の古筆切



寸松庵色紙 平安時代 11世紀後期

コラム 茶道具の使い方

茶道の経験や予備知識を持たない一般の来場者にとって、展示されている茶道具の用途や使い方を想像することは難しいものです。そこで本展では、香合や茶入などの茶道具を展示するとともに、茶席での使い方を動画で紹介します。茶道具に少しでも関心をもていただければ幸いです。



1. 国宝 大井戸茶碗 銘 喜左衛門
朝鮮時代 16世紀 孤篷庵



2. 国宝 色絵藤花文茶壺
野々村仁清 江戸時代 17世紀



3. 唐物羽室文琳茶入 大名物
中国 南宋時代 13世紀



4. 灰被天目茶碗 銘 秋葉
中国
南宋～元時代 13-14世紀



5. 黒楽茶碗 銘 あやめ
長次郎 桃山時代 16世紀



6. 叭々鳥図 伝 牧谿
中国 南宋時代 13世紀



7. 重文 色絵金銀菱文重茶碗
野々村仁清 江戸時代 17世紀

展覧会概要

展覧会名：国宝「喜左衛門井戸」×国宝「色絵藤花文茶壺」 茶の湯のわびと雅

会期：2026年3月20日|金|－5月12日|火|

会場：MOA美術館 展示室1－3

〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557-84-2511 URL: <https://www.moaart.or.jp>

開館時間：午前9時30分－午後4時30分(入館は午後4時迄)

休館日：木曜日

観覧料：一般2,000(1,800)円/高大生1,400(1,200)円・要学生証/中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※障がい者手帳をお持ちの方と付き添い者(2名まで)無料

※前売り券は、お近くのコンビニエンスストア(セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート)でもお求めいただけます。

交通：JR東海道新幹線・東海道線 熱海駅下車、駅前バスターミナル⑧番乗り場よりMOA美術館行約7分終点下車

広報画像のお申し込み

広報画像をご希望の方は、①貴社名 ②ご所属 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス ⑦媒体名 ⑧掲載・放送予定日 ⑨掲載概要 ⑩貸出希望画像番号を記載の上、下記担当までお申し込みください。

〈広報画像取扱いに関する規定〉

◎広報画像はすべてMOA美術館を紹介する場合に限ります。事前の申請・承諾なく二次利用いたしません。

◎広報画像を紹介する場合には、指定されたクレジットを併記します。

◎トリミング、変形、部分使用、文字のせは無断で行いません。

◎〈広報画像取扱いに関する規定〉に承諾のうえ、画像申込みを行います。

〈個人情報の取扱いについて〉

ご記載いただきました個人情報は、広報からの情報発信やご案内など必要なご連絡にのみ使用いたします。許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。

MOA美術館 広報担当：上榎、石倉

TEL 0557-84-2567

Email: moaart-info@moaart.or.jp

MOA美術館

〒413-8511 熱海市桃山町26-2 TEL: 0557-84-2511

<https://www.moaart.or.jp>